

- 問1 ある自治体では、大雨による河川の氾濫に備えて避難行動の計画を立てるよう住民に呼びかけています。このとき活用されるハザードマップの利用方法として最も適切なものを1つ選びなさい。 (2026年 宮崎県公立入試 類似)
- 商業施設や公共施設の営業時間を一瞥で確認し、災害時の物資の購入場所を決めておく。
 - 道路の渋滞状況をリアルタイムで確認し、最も移動時間が短い交通手段を選択する。
 - 地域の地価や家賃の相場を比較し、住み替えに適した安全な場所を調べる。
 - 自宅周辺の浸水想定区域や近くの避難場所を確認し、適切な避難経路を事前に調べておく。
- 問2 避難所となる公園や学校において、マンホールトイレの設置や設置体験訓練を行う主な目的として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 宮崎県公立入試 類似)
- 下水道処理施設への負担を常時減らすため、日常的に利用するトイレの代替施設として活用するため。
 - 地域の新たな観光資源化を進め、平時から多くの観光客を呼び込んで地域経済を活性化させるため。
 - 災害時における停電や断水によるトイレ不通のリスクに備え、避難生活での衛生環境を確保するため。
 - 平時における公共施設の管理コスト削減を目的として、日常の水道代や電気代を節約するため。
- 問3 自然災害による被害が予想される区域や、避難場所・避難経路などの情報を地図上にまとめ、住民の防災意識を高めたり迅速な避難を促したりするために作成される資料を何といいますか。 (2016年 佐賀県公立入試 類似)
- 地形図
 - 都市計画図
 - ハザードマップ
 - 観光地図
- 問4 冬の時期に日本海側で多くの雪が降るメカニズムについて、その背景と原因を正しく説明しているものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- 大陸から吹く冷たく乾燥した北西の季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈にぶつかって上昇することで雪を降らせる。
 - 太平洋から吹く湿った南東の季節風が、奥羽山脈を越えて日本海側に流れ込む際に、急激に冷やされて雪を降らせる。
 - 赤道付近から北上する暖かく湿った空気が、冬のシベリア高気圧とぶつかることで停滞前線が形成され、雪を降らせる。
 - 日本海を流れる寒流の対馬海流の影響で、シベリアから来る乾燥した風が冷やされ、平野部を中心に雪を降らせる。
- 問5 三陸海岸や志摩半島に見られる、小さな岬と湾が繰り返される複雑な海岸地形の「成り立ち」について、説明した文として最も適切なものを選びなさい。 (2019年 山形県公立入試 類似)
- 山地の谷であった場所に海水が入り込むことで形成された。
 - 波の浸食によって削られた平坦な海底が、土地の隆起によって陸地化して形成された。
 - 河口付近に上流からの土砂が堆積し、低くて平らな土地として形成された。
 - 沿岸流によって運ばれた砂が、湾の入り口をふさぐように細長く積もって形成された。
- 問6 ある統計資料において、都市Aは1月の平均気温がマイナス0.6度と低く、冬の降水量が非常に多いという特徴があります。一方で都市Bは、1月の降水量が38.2mm、7月が144.1mmと全体的に降水量が少ない数値を示しています。これらのデータから推測される都市Aと都市Bの組み合わせとして、正しいものを選んでください。 (2017年 福岡県公立入試 類似)
- 都市A：瀬戸内海に面した都市、都市B：東北地方の日本海側の都市
 - 都市A：中央高地に位置する都市、都市B：太平洋に面した温暖な都市
 - 都市A：東北地方の日本海側の都市、都市B：瀬戸内海に面した都市
 - 都市A：太平洋に面した温暖な都市、都市B：中央高地に位置する都市
- 問7 川が山間部から平地に流れ出た場所に形成される扇状地の土地利用について、地形的な特徴と農業の関係を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)
- 等高線の間隔が広く、ゆるやかな斜面が広がる場所は、砂や礫が堆積して水はけが良いため、果樹栽培に利用されることが多い。
 - 等高線の間隔が狭く、複雑な地形をしている場所は、強風を防ぎやすいため、ビニールハウスを用いた促成栽培が行われる。
 - 等高線の間隔が広く、平坦な場所では、地表に水が残りがやすく湿地になりやすいため、主に稲作地帯として利用される。
 - 等高線の間隔が狭く、急な斜面が続く場所は、日当たりが良いため、山の斜面をそのまま利用して茶の栽培が行われることが多い。
- 問8 山地において新しい登山道を計画する際、地形図上で等高線の間隔が広くあいている場所を優先的に選ぶ理由として、地形の仕組みから説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 香川県公立入試 類似)
- 等高線の間隔が広い場所は、単位距離あたりの標高差が小さく、傾斜が緩やかで歩行の負担が少ないため。
 - 等高線の間隔が広い場所は、周囲よりも標高が高い尾根筋にあたり、見晴らしが良く道迷いのリスクが低い。
 - 等高線の間隔が広い場所は、雨水が集中して流れる谷状の地形であり、水源を確保しやすくキャンプに適しているため。
 - 等高線の間隔が広い場所は、地盤が固くて土砂崩れの危険性がないことを示しており、安全なルート工作ができるため。
- 問9 三陸海岸の一部を上空から観察すると、海が陸地の奥深くまで入り込み、複雑な海岸線を描いていることがわかります。このような地形が持つ、防災上の特徴に関する説明として、最も適切なものを選びなさい。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- 湾の入り口が広く奥に向かって狭まっているため、津波のエネルギーが集中して波が高くなりやすい。
 - 海岸沿いに階段状の平地が広がっているため、波が陸地に到達する前に威力が弱まりやすい。
 - 沿岸に砂が堆積してできた砂礁があるため、それが防波堤の役割を果たして浸水を防ぎやすい。
 - 海岸線が直線的で遠浅であるため、波のエネルギーが分散し、津波による被害が軽減されやすい。
- 問10 日本の伝統的な年中行事に関する記述として、立春の前日に行われ、「鬼は外、福は内」という掛け声とともに豆をまいて災厄を払い、一年の無病息災を願う行事の名称を答えなさい。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
- お盆
 - 立春
 - 節分
 - 大晦日
- 問11 太平洋沿岸を流れる日本海流（黒潮）の影響を受けている地域では、その気候特性を活かした農業が盛んです。この海流がもたらす影響と産業の様子を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2021年 埼玉県公立入試 類似)
- 冬でも気温が温暖に保たれるため、高知県や静岡県などで果樹栽培や野菜の促成栽培が行われている。
 - 海流の影響で夏に「やませ」と呼ばれる冷たい風が吹き、東北地方の稲作に冷害をもたらしている。
 - 日本海側へ流れ込むことで冬の降雪量を増やし、新潟県などで稲作が盛んになる要因となっている。
 - 北からの冷たい海水を運んでくるため、夏でも涼しく、北海道を中心に大規模な畑作が行われている。
- 問12 日本の利根川や信濃川などの河川は、大陸を流れるナイル川やアマゾン川と比較して、地形的な特徴からどのような性質を持っていますか。源流付近の標高から河口までの距離に着目して、最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 島根県公立入試 類似)
- 標高の変化がほとんどない平地を数千キロメートルにわたって流れるため、水流が非常に穏やかな川である。
 - 河口までの距離は短い、標高の低い土地を曲がりくねって流れるため、流れが非常に緩やかな川である。
 - 山地から海岸までの距離が短い、標高の高い場所から一気に海へ流れ下る、短くて流れが急な川である。
 - 山地から海岸までの距離が長い、標高の高い場所からなだらかに下り、広大な盆地を形成する川である。